

お祝いの言葉

東北大学 学位プログラム推進機構・リーディングプログラム部門の部門長として、2016 年度 東北大学 リーディングプログラム部門の「修了式」を挙げるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、東北大学 博士課程教育リーディングプログラム、「グローバル安全学 トップリーダー育成プログラム」を修了された理学研究科の 4 名の皆さん、工学研究科の 5 名の皆さん、プログラムの修了、誠におめでとうございます。

また、本プログラムをここまで導き、運営をしてこられたコーディネーター湯上浩雄先生をはじめとする諸先生方、第 1 期修了生を迎えて、さぞ感慨も一入だろうと推察しております。本日の修了式の挙げるをお喜び申し上げます。

さて、今回修了された皆さんは、2013（平成 25）年の 4 月、修士課程 2 年次学生として本リーディングプログラムに入学された第 1 期生であります。プログラムの理念や目標、そしてカリキュラムが提示されていたとはいえ、ロールモデルとなる先輩が一人もいない中でのプログラムへの参加ということで、大きな不安が胸中をよぎったものと思います。

しかしながら皆さんは、すべてが手探り状態であったとは思いますが、同期の仲間とともに、そして後輩とともに、大いに勉学に励み、プログラムが求めるカリキュラムをこなしてきました。そして、昨秋行われたリーディングプログラム部門の最終試験に無事合格し、修了認定を受けることになりました。研究科・専攻における通常の大学院カリキュラムの他に、プログラムのカリキュラムもこなすという皆さんのこれまでのご努力に、深く敬意を表します。皆さん

は、先週行われた学位記授与式において、その冒頭に「グローバル安全学トップリーダー育成プログラムを修了し」と記された学位記を、万感の思いもって受領されたことと思います。

さて私は、先週のことですが第2期生であるS君から電子メールで、この修了式の後に行われる「G-Safety 修了生祝賀会」への招待を受けました。このメールには、総長にも出席をお願いしてくださいとの要請もありました。残念ながら、総長は本日東京出張が入っており、私もこの後すぐに会議がありますので、出席はかなわないのですが、S君からのメールは実に素晴らしいことが述べられていましたので、ここにその一部を紹介させていただきます。

「身勝手なお願いとは承知しておりますが、先生から里見進総長に本イベントについてお声がけいただけると幸甚に存じます。というのも、本プログラム最初の修了生である先輩方に対して、後輩として我々は大変誇りを持っております。なので、里見総長にも修了生の素晴らしさを知っていただきたいので、失礼を顧みずにこのようにお願いしている次第でございます。」

この内容、なんと素晴らしいことなのでしょう、私は感激いたしました。第1期生の皆さんの素晴らしさが伝わってきますし、また、先輩・後輩の関係がとてもうまくいっていることも分かります。このことを、プログラムの先生方にも知っていただきたく、ここに紹介させていただきました。

ここで私からお願いがあります。この2月24日に行われたC-Lab研修発表会の場で、湯上先生からも話がありましたが、ぜひプログラム修了生間のネットワークを構築して下さい、ということです。皆さんは、プログラムでの数年間、言わば「同じ釜の飯を食った仲間」なのです。今後は、皆さんはそれぞれ異なる

場所で異なる立場で活動していくことになります。そして幾多の困難な課題と直面するはずです。そのようなとき、ネットワークが大きな力になります。人のつながりこそ、財産なのです。どうか、ネットワークの構築を進めていただくことをお願いいたします。

最後になりましたが、改めて修了生の皆さん、本日は誠におめでとうございました。皆さんはプログラムを離れ、一人ひとりが新しい場所で新たな活動を始めると思いますが、プログラムで培った力を思う存分発揮してくださることを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

2017年3月27日

東北大学 学位プログラム推進機構

リーディングプログラム部門 部門長

理事 花輪 公雄